令和４年度　松田町立松田小学校　学校だより　第11号

酒匂の清流

令和４年10月17日（月）発行

校長　津田　将美

本物にふれる日　～ゆめコンサートから～

いきなり別世界に送り込まれたような感覚になりました。腹の底まで響くような打楽器のリズム。オーケストラの迫力のある前奏。そしてその後に流れてくる聴きなれたメロディー。アレンジされた校歌の圧倒的な迫力に、鳥肌が立つようでした。

私と音楽主任は、ゆめコンサートのリハーサルで、校歌の部分を聴かせてもらうために、オーケストラの目の前に椅子を用意され、二人で座っていたのです。

「すごい…」

本来声を出してはいけない場面だったのですが、つい声が出てしまいました。

これは子どもたちにとって、すばらしい体験になる、という予感と共に、リハーサルをあとにしました。

２年越しの思いが叶い、９月 30 日に神奈川フィルハーモニー管弦楽団のゆめコンサートが９月 30 日に実施されました。私が松田小学校に来てから３年目になりますが、やっとこのような本物にふれる体験ができる日がやってきたんだなあ…、と感慨深く感じました。

全校一堂に会することはできませんでしたが、低学年、高学年の２部制でそれぞれ 30 分ずつと密度の濃い時間となりました。

演奏が始まると、子どもたちの表情からも本物にふれた喜びや感動が感じられました。食い入るようにオーケストラを見つめる子、音楽を体全体で感じながらリズムをとる子、微笑みながらうっとりと聴く子等々、それぞれの学年なりの反応を見ていることも、私にとっては感動の時間となりました。

一通りの演奏が終わると、いよいよオーケストラとの共演、「トレパーク（くるみ割り人形より）」です。昨年度から練習をしてきたボディーパーカッションの練習の成果をいよいよ発揮する場がやってきました。

オーケストラの迫力のある演奏に合わせて、体全体を打楽器にして思いっきり演じる。これもまた、なかなかと体験することのできない素晴らしい体験でした。精一杯体を動かし表現した子どもたちの表情は、とても充実したものでした。

最後に校歌のアンコールをプレゼントされ、最高の一日となりました。

自然とふれあう日　～仲間との協力の成果を～

「校長先生、あいさつをお願いします。」
林間学校の実行委員の言葉を受けて、５年生の前に出ました。皆、背筋の伸びた姿勢でしっかりとこちらを見てくれています。私も思わず気持ちよくなって、
「今の姿勢、とてもかっこいいよ。さすが５年生だ。」
と褒めました。子どもたちの視線が、さらにしっかりとこちらを向きます。
　林間学校の出発式では５年生に、雨も熱中症も心配のない曇り空なので、思いっきり活動して思い出をたくさん作ってほしいと伝えました。（実際は、キャンプファイヤーの時に小雨が降り始めましたが…）最後まで意欲的にしっかりと聞いてくれる５年生の姿が頼もしかったです。

　私は午後の野外炊事から応援に行きましたが、その前の活動も仲間との協力を大切にしながら、自然とふれあいながら活動を満喫することができたようです。野外炊事も友だちと声をかけ合って一生懸命活動していました。
　手づくりのカレーの味を満喫して、片付けの時間に入ったときのことです。力を入れて使用した鍋をピカピカになるまで磨いています。とても疲れる作業なので、友だちと協力しながら順番に磨いていました。
「みんなで、協力してきれいに磨くことができているね。」
そう声をかけると、鍋を渡した子、渡された子でこんな会話をしていました。
「これで、めあて一つ達成だね！！」
笑顔でそんな言葉を交わす姿を見て、子どもたちと担任とのめあてを大切にしたこの活動への想いの強さを感じました。そして、とても嬉しくなりました。
　キャンプファイヤーは降り始めた小雨の中、雨具をつけての活動となりましたが、それまでの活動と変わらず、自分たちのめあて、仲間を大切にしながら、ほのぼのとした雰囲気の中で進んでいきました。
　森の静寂、木々の息吹、大自然の神秘的な雰囲気につつまれながら炎に照らされながら踊るジンギスカンは、とても幻想的でした。仲間を大切に自然とふれあえたこの体験が、子どもたちの心の中にいつまでも彩り豊かに残ってくれるといいな、と思いました。

　教育活動が、少しずつコロナ前に近づいてきています。今号で紹介したコンサートや野外での活動、宿泊など、子どもたちにとって大切な活動を私たち職員は本当に必要なものであると感じています。
　今までできないことはあっても、限られた環境の中で少しでも実施できるものについては、勇気をもって進めてきました。それでも、子どもたちにとっては、残念な思いをしたことも多かったかと思います。引き続き、感染対策等に十分配慮しながら、教育活動を行っていきます。保護者、地域の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。